



## ヘルパンギーナ マイコプラズマ肺炎 に注意!

全国的にヘルパンギーナやマイコプラズマ肺炎といった感染症が流行しているようです。早町小でも、咳が長引いていたり、喉の痛みや発熱で来室したりする児童が多く見られています。これらの感染症に気を付けて、元気に運動会を迎えてほしいと思います。学校でも手洗いうがい、体調不良時のマスクの着用等を指導いたします。御家庭でも見守りと御指導をよろしくお願いいたします。

### ヘルパンギーナについて

口の中や咽頭(喉の奥)に水疱ができるのが特徴の感染症。原因となるウイルスが複数あるため、再感染することもある。春から夏にかけて多く発生し、流行のピークは7月頃である。夏かぜの代表的な疾患で、4歳以下の乳幼児に多い。



潜伏期間	3~6日。ウイルスが排出されるのは呼吸器から1~2週間、便からは数カ月間。
感染経路	飛沫感染 接触感染 経口(糞口)感染
症状・予後	突然の発熱(39℃以上)、咽頭痛がみられる。咽頭に赤い発しんが見られ、次に水疱、潰瘍となる。熱性けいれん、無菌性髄膜炎を合併することがあるため注意が必要。
予防法・ワクチン	飛沫感染・接触感染するため、手洗いうがい等の予防をする。ワクチンはない。
登校基準	全身状態が安定している場合は登校可能。長期間、便からウイルスが排出されるため、手洗い(特に排便後)が重要。

参考:日本学校保健会「学校において予防すべき感染症の解説」(令和6年3月22日発行)

### マイコプラズマ肺炎について

咳を主症状とし、学童期以降の細菌性肺炎としては最も多い。夏から秋にかけて多く、家族内感染や再感染も多くみられる。5歳以上では、10~15歳頃にかかりやすいが、成人も感染する。



潜伏期間	主に2~3週間
感染経路	飛沫感染 接触感染 症状のある間がピークだが、保菌は数週~数カ月間持続する。
症状・予後	咳、発熱、頭痛等のかぜ症状がゆっくりと進行し、特に咳は徐々に激しくなる。しつこい咳が3~4週持続する場合もある。中耳炎・髄膜炎や発しんを伴うこともある。治療は適切な抗菌薬で行う。
予防法・ワクチン	飛沫感染・接触感染するため、手洗いうがい等の予防をする。ワクチンはない。
登校基準	症状が改善し、全身状態の良い者は登校可能。

参考:日本学校保健会「学校において予防すべき感染症の解説」(令和6年3月22日発行)

### 保護者の皆様へのお願い

- 急な体調不良や発熱で、学校からお迎えのお願いをすることがあります。緊急時に連絡が取れるようにしておいてください。
- お迎えの際は、校舎前に車を駐めていただいてもかまいません。
- 病院で「ヘルパンギーナ」や「マイコプラズマ肺炎」等の感染症と診断されましたら必ず学校に御連絡ください。
- 運動会練習を行っております。体調不良者の中には「朝ご飯を食べてきていない」児童が多いです。朝ご飯を食べるよう見守りをお願いします。

